

# 国東半島県立自然公園の鳥類

郷司信義・武石宣彰

# 国東半島県立自然公園の鳥類

郷司信義\*・武石宣彰\*\*

## はじめに

国東半島は大分県の北部に位置し、伊予灘と周防灘に面する円形の半島である。中央部には両子山や文珠山などの山地があり、この中央山地から海岸線に向かって放射状に谷が延びている。海岸部は、北部はリアス式海岸、東部は砂浜の海岸となっている。この中央部の山地や海岸部は県立自然公園に指定されており、この度、今後の公園計画見直しの際の基礎データを得る為に、国東半島県立自然公園の自然環境学術調査を行うこととなった。国東半島における鳥類の調査は、「夷耶馬・鷺巣岳地域の鳥類」(武石：1996)、「保安林管理道予定地の鳥類」(郷司，財津：1999)が行われ報告されているが、今回は、県立自然公園を中心として現地調査を行い、自然公園における鳥類の生息特性を明らかにすると共に、自然公園以外の観察記録とも合わせ国東半島全域の鳥類目録の作成を行う。



図1. 国東半島県立自然公園 調査地

## 調査地

現地調査は、県立自然公園をその環境から以下のA~Eの区域に分け、それぞれの区域の環境を代表する場所等を調査地とした。

- A：中央山地地区〔屋山，大獄山，千燈岳などの山地〕
- B：岩峰地区〔鋸山，西叡山，津波戸山などの山地〕
- C：砂浜海岸地区〔長浜海岸，黒津崎，奈多海岸などの海岸部及び後背地〕
- D：リアス式海岸地区〔長崎鼻，権現崎などの海岸部及び後背地〕
- E：里山地区〔県立自然公園内の河川，農耕地，池など〕

\*大分県国東市国東町浜3780-1 \*\*大分県佐伯市中山区16班

## 調査方法

現地調査は、県立自然公園内を2007年10月から2008年9月にかけて実施した。中央山地地区は屋山、岩峰地区は鋸山を代表場所とし、麓から山頂までの調査ルートを設定した。調査ルートの登山道を歩き、両側及び上空に出現する鳥類を記録した。砂浜海岸地区は長浜海岸、黒津崎などの海岸部と後背地、リアス式海岸地区は長崎鼻や権現崎などの岬の先端部や入り江、後背地を移動しながら、見通しのきく場所での定点観察を行った。里山地区は県立自然公園内の人家近くの耕作地や林、河川、農業用ため池などを移動しながら、見通しのきく場所での定点観察を行った。

調査用具には、双眼鏡（8倍）、望遠鏡（20～45倍）、カメラ、時計、地図等を用いた。

観察記録調査は、豊後高田市、国東市、杵築市で構成される国東半島全域について、2003年から2008年までの日本野鳥の会大分県支部機関紙「たより」の観察記録、及び調査員の2003年から2007年までの観察記録を調査した。

## 調査結果

2007年10月から2008年9月迄の間における国東半島県立自然公園の現地調査で、15目38科104種の鳥類を確認し、この鳥類リストと環境別生息状況を表1に示す。

中央山地地区においては、森林性の鳥類を中心に35種が確認され、留鳥ではヒヨドリ、メジロ、エナガなどが多数見られ、冬鳥ではシロハラやツグミが数多く出現した。夏鳥では数は多くないもののキビタキ、オオルリ、サンコウチョウなどが確認された。

岩峰地区においては、森林性の鳥類を中心に24種が確認され、留鳥ではヒヨドリやメジロ、ウグイス、冬鳥ではシロハラが多数見られた。夏鳥では数は多くないがキビタキ、オオルリなどが確認された。

砂浜海岸地区では、砂浜の海岸から後背地の耕作地、林など様々な環境がある為、水辺の鳥から人里、森林性の鳥まで50種が確認された。水辺では旅鳥のシギやチドリの仲間や冬鳥のカモの仲間が多数確認された。後背地では、夏鳥のツバメ、留鳥のスズメやカワラヒワ、ホオジロなどが多数見られた。

リアス式海岸地区では、海岸の磯から後背地の耕作地、林など様々な環境がある為、水辺の鳥から人里、森林性の鳥まで59種が確認され、調査区域では出現した鳥の種類が最も多くなった。海上では冬鳥のオオハムやウミウ、入り江や調整池でカモの仲間が多数確認された。岬の林の中では、留鳥のヒヨドリや冬鳥のシロハラ、調整池の葦原では冬鳥のオオジュリンやツリスガラが数多く見られた。

里山地区では、水辺の鳥から人里、森林性の鳥まで47種が確認された。水田で採餌する留鳥のダイサギや農業用ため池で冬鳥のカモの仲間が多数確認された。人家近くの林では留鳥のヒヨド

り、耕作地では、スズメ、カワラヒワ、ホオジロなどが多数見られた。

この現地調査に過去5年間の国東半島の観察記録を加え、国東半島全域としては16目48科177種の鳥類を確認した。この鳥類目録を表2に示す。

### 特定種

国東半島県立自然公園では21種の特定種が確認された（表3参照）。環境省レッドリスト掲載種では絶滅危惧ⅠB類でコシャクシギ，絶滅危惧Ⅱ類でトモエガモ，サシバ，ハヤブサ，サンショウクイが確認された。ハヤブサは「絶滅するおそれのある野性動植物の種の保存に関する法律」（以下「種の保存法」と言う）の国内希少野性動植物種にも指定されている。大分県のレッドデータブック掲載種では，絶滅危惧Ⅱ類でオシドリ，オオバン，フクロウなど，準絶滅危惧でミサゴなどが確認された。



写真1. ミサゴ

表3. 特定種（国東半島県立自然公園）

No.	種名	環境省レッドリスト	大分県レッドデータブック	種の保存法
1	カワウ		地域個体群	
2	チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
3	クロサギ		準絶滅危惧	
4	オシドリ	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類	
5	トモエガモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
6	ミサゴ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
7	ハチクマ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
8	ハイタカ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
9	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
10	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	国内希少野生動植物種
11	オオバン		絶滅危惧Ⅱ類	
12	コチドリ		準絶滅危惧	
13	シロチドリ		準絶滅危惧	
14	コシャクシギ	絶滅危惧ⅠB類	情報不足	
15	アオバズク		準絶滅危惧	
16	フクロウ		絶滅危惧Ⅱ類	
17	アカショウビン		絶滅危惧Ⅱ類	
18	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
19	メボソムシクイ		絶滅危惧Ⅱ類	
20	キビタキ		準絶滅危惧	
21	サンコウチョウ		準絶滅危惧	

県立自然公園以外の区域では18種の特定種が確認され、国東半島全域での特定種は39種となった。



写真2. ダイサギ, チュウサギ, アマサギ



写真3. クロサギ

## 考 察

国東半島県立自然公園の現地調査において、15目38科104種の鳥類を確認した。この目別種数構成は図2のようになる。大分県全域の目別種数構成と比較すると、出現種数の多い上位5目は、共にスズメ目、チドリ目、カモ目、コウノトリ目、タカ目で、全体に占める割合も82%と同一であった。上位5目を比較すると、県立自然公園ではチドリ目の割合が低く、スズメ目の割合が高くなっている。

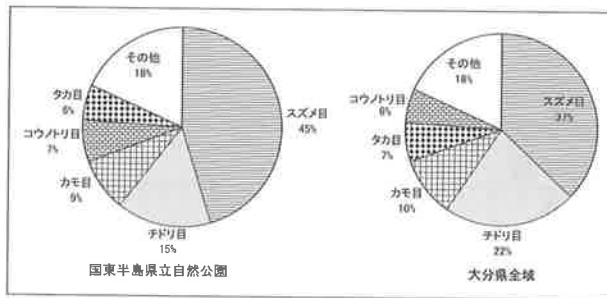


図2. 目別種数構成

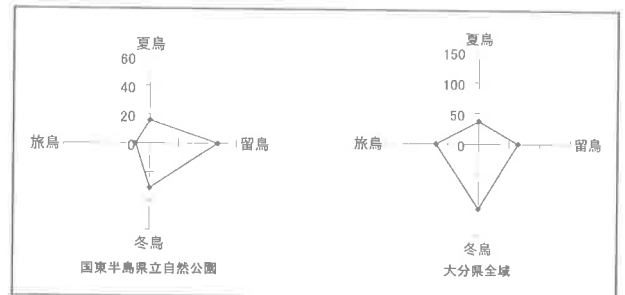


図3. 生活型生息特性

出現鳥類の生活型から夏鳥、冬鳥、留鳥、旅鳥に分類した特性では、図3のように大分県全域ではマイナスXとマイナスYの面に開けた旅鳥と冬鳥の多い特性を示している。県立自然公園では、プラスXとマイナスYの面に開けた留鳥と冬鳥が多い特性を示している。

この目別種数構成及び生活型生息特性の違いは、県立自然公園では旅鳥のシギ、チドリの仲間の出現が少ないためである。これは、県立自然公園の海岸部が磯と砂浜海岸から成っており、干潟に比べると立ち寄るシギ、チドリが少ないためと思われる。

次に、調査地別の目別種数構成と生活型生息特性から、各調査地の特性を見る。

### 1. 中央山地地区と岩峰地区

この両地区の環境は、山地における森林が主であり、目別種数構成ではスズメ目が約80%を占めている。生活型生息特性では留鳥が中心となっている。

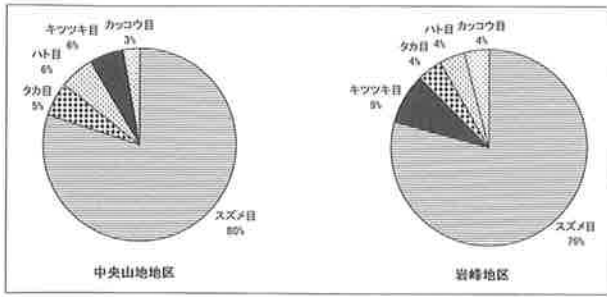


図4. 目別種数構成

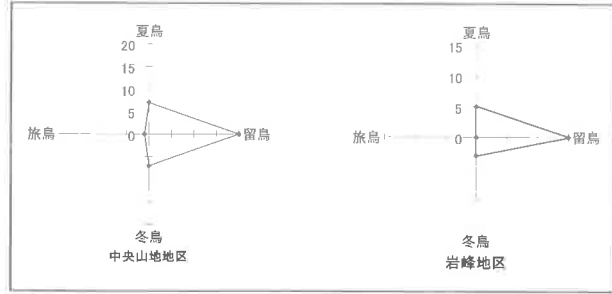


図5. 生活型生息特性

出現種数では、岩峰地区の23種に対し、中央山地地区は35種と多くなっている。比較的緩やかな傾斜に樹木が多い中央山地地区に比較し、急峻な崖で樹木が少ない岩峰地区は、鳥類にとっては厳しい生息環境と思われる。

## 2. 砂浜海岸地区とリアス式海岸地区

渡り途中の旅鳥のシギやチドリの仲間は、リアス式海岸地区よりは、長浜海岸や黒津崎など砂浜海岸地区に比較的多く立ち寄るため、砂浜海岸地区の目別種数構成ではチドリ目の割合が高く、生活型生息特性でも旅鳥の割合が高くなっている。

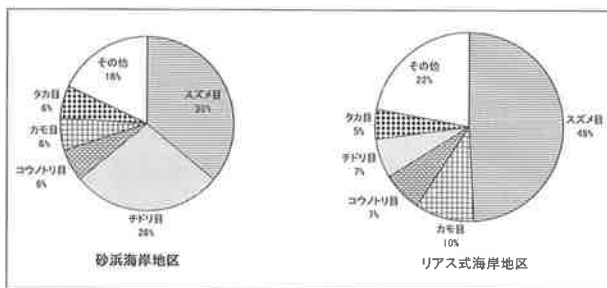


図6. 目別種数構成

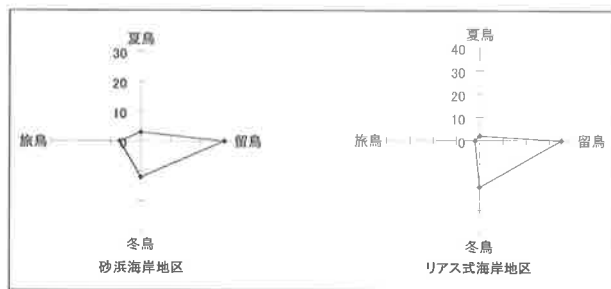


図7. 生活型生息特性

## 3. 里山地区

目別種数構成では、人家近くの林や田畑に生息するスズメ目と河川や農業用ため池などに冬季渡来するカモ目、河川や水田で採餌するコウノトリ目が全体の約7割を占めている。生活型生息特性では、留鳥と冬鳥が多い特性を示している。

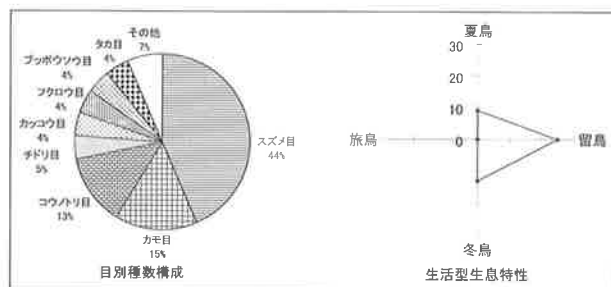


図8. 里山地区

### 各調査地に生息する鳥類の特徴と自然環境の保全

中央山地地区と岩峰地区は、森林性の鳥類を主体に類似の鳥相を示しているが、急峻な岩峰地区より比較的緩やかな中央山地地区の方が出現鳥種は多くなっている。この地域は照葉樹林に生

息するヒヨドリやメジロなどの留鳥類と夏鳥のオオルリやキビタキ、冬鳥のシロハラやツグミなどの良好な生息地となっている。この地域のスギ・ヒノキの人工林は間伐などの適切な維持管理を行い、また広葉樹の森は良好な状態を保全して行く必要がある。

砂浜海岸地区やリアス式海岸地区では、海岸部近くの海上がオオハムやウミウ、ウミアイサなど海鳥の越冬場所となっている。砂浜海岸地区の長浜海岸では、春と秋の渡りの季節にチュウシヤクシギやメダイチドリなどのシギ・チドリの仲間が立ち寄り、渡り鳥の中継地となっている。リアス式海岸地区では、湾を埋め立てて農耕地とした時に、地元では「ザブ」と呼ばれる塩抜きのため作られた調整池が冬鳥の良好な越冬場所となっている。この中は汽水域と葦原から成り、水域でカモ類が採餌や休息をし、葦原ではツリスガラやオオジュリンが採餌をしている。夏季には、葦原でセッカやホオジロが繁殖している。リアス式海岸地区に多数ある「ザブ」は、人によって作られた環境ではあるが、今は鳥の良好な生息場所となっており、また、人と近い場所にあるため、自然観察などに適している。塩が抜けた後は、埋め立てられる可能性があるらしいが、このまま残し、生息環境としての保全と環境教育への活用などのワイズユースの検討が必要と思われる。



写真4. ザブ

里山地区では、サギの仲間が水田でエサを採っており、特にダイサギが多数見られた。人家近くの大木がある場所ではフクロウやアオバズクが営巣を行っている。社寺林や人家近くの大木は、これらの樹洞営巣性鳥類にとっての重要な営巣場所であり、維持保全する必要がある。内陸部には農業用のため池が多数あり、オシドリ、コガモなどのカモ類の越冬場所となっている。ただ、冬季は水を抜くなど水量が大きく変化することがあるため、これらのカモ類が安定的に生息することが困難となっている。良好な越冬場所は冬季も水量を確保するなど、生息地の環境保全を検討する必要がある。



写真5. アオバズク

中央山地地区と岩峰地区及び砂浜海岸地区で、外来種のソウシチョウとガビチョウを確認した。情報では他の地域にも生息していると思われ、これら外来鳥類の生息域拡大が一段と懸念される。ソウシチョウやガビチョウは、人が飼っていたものが野性化し、繁殖力の強さ、餌や営巣場所の適合などから、個体数が急激に増加したものである。外来種は従来からいる種へ大きな影響を及ぼす場合が多い為、ペット等の取り扱いについては、十分な啓発指導が必要である。

### 県立自然公園以外の地域における鳥類

現地調査を行った県立自然公園以外での鳥類の生息状況は、国東半島全域における野鳥情報及

び野鳥観察から次の通りである。国東半島北西部の豊後高田市真玉・呉崎の干拓地では、冬季、チュウヒやオオノスリ、コチョウゲンボウなど多種の猛禽類が越冬のため渡来し、春や秋の渡りのシーズンには多くのシギ、チドリが立ち寄り。また半島南部の八坂川及び河口の守江湾では、干潮時に広がる広大な干潟にシギ、チドリが多く立ち寄り、冬季にはカモ類が多数渡来し越冬する。これらの地域は、鳥類にとっての重要な渡りの中継地であり、冬季の越冬地である。ここでは、自然観察など様々な活動が行われており、今後、県立自然公園計画の見直し等を行う際には、新たな策定箇所として十分検討する余地のある場所である。

### ま と め

- (1) 国東半島県立自然公園の鳥類の生息調査を行い、15目38科104種の鳥類の記録が得られた。国東半島全域では16目48科177種の鳥類目録が得られた。
- (2) 県立自然公園調査環境別では、中央山地地区で35種、岩峰地区で24種、砂浜海岸地区で50種、リアス式海岸地区で59種、里山地区で47種の鳥類を確認した。
- (3) 県立自然公園で確認された特定種は、環境省レッドリスト掲載種の絶滅危惧ⅠB類でコシヤクシギ、絶滅危惧Ⅱ類でトモエガモなど、大分県のレッドデータブック掲載種の絶滅危惧Ⅱ類でオシドリなど合計21種であった。自然公園以外の地域も含めた国東半島全域での特定種は39種であった。
- (4) 県立自然公園の鳥相は、大分県全域の鳥類と比較すると、目別種数構成ではチドリ目の割合が低く、スズメ目の割合が高くなっている。生活型の特性では留鳥と冬鳥が多い特性を示している。
- (5) 中央山地地区と岩峰地区は、照葉樹林に生息するヒヨドリやメジロなどの留鳥類と夏鳥のオオルリやキビタキ、冬鳥のシロハラやツグミなどの良好な生息地となっており、これらの鳥類の生息場所である森林は適切に維持、保全される必要がある。
- (6) 砂浜海岸地区やリアス式海岸地区は、海上がオオハムやウミアイサなどの海鳥の越冬場所となっており、また砂浜海岸は、春と秋にはチュウシヤクシギやメダイチドリなどシギ・チドリの仲間の渡りの中継地となっている。
- (7) リアス式海岸地区では、「ザブ」と呼ばれる塩抜きのため作られた調整池が、夏にはセツカやホオジロの繁殖場所となり、冬にはツリスガラやオオジュリンの越冬場所となっている。「ザブ」は人に近い場所にあり、鳥類の生息場所としての保全と環境教育への活用などのワイズユースの検討が必要と思われる。
- (8) 里山地区では、フクロウやアオバズクなどの樹洞営巣性鳥類が生息しており、樹洞を提供する社寺林や人家近くの大木の維持保全が重要である。農業用ため池は、オシドリやコガモなどの越冬場所となっており、水量の確保など環境保全を検討する必要がある。
- (9) 県立自然公園以外の地域では、国東半島北西部の豊後高田市真玉・呉崎の干拓地が、チュウヒなどの猛禽類の越冬地とシギ、チドリ類の中継地となっている。また半島南部の八坂



川及び河口の守江湾の干潟は、シギ、チドリ類の渡りの中継地とカモ類の越冬地となっている。今後、県立自然公園計画の見直し等を行う際には、新たな策定箇所として十分検討する余地のある場所である。

### 参考文献

- 日本鳥学会 2000 日本鳥類目録改訂第6版  
 高野伸二 1982 フィールドガイド日本の野鳥 日本野鳥の会  
 日本鳥類保護連盟 1988 鳥630図鑑  
 松田道生 1985 野鳥の調査 東洋館出版社  
 由井正敏 1988 森に棲む野鳥の生態学 創文  
 大分県野鳥友の会 1992 大分県内で観察された野鳥 20周年記念誌  
 日本野鳥の会大分県支部 2006 おおいたの野鳥  
 大分県 2001 レッドデータブックおおいた  
 武石宣彰 1996 夷耶馬・鷺巣岳地域の鳥類（夷耶馬・鷺巣岳地域自然環境学術調査報告書）大分県  
 郷司信義・財津博文 1999 保安林管理道予定地の鳥類調査報告書  
 日本野鳥の会大分県支部 機関紙「たより」179号～211号

表1. 環境別生息状況 国東半島県立自然公園

No.	目	科	種名	生活型	中央山地 (屋山)	岩峰 (鋸山)	砂浜海岸 (黒津崎)	リアス式海岸 (権現崎・長崎鼻)	里山 (河川・農耕地・池)	
1	アビ目	アビ科	オオハム	冬鳥			○	◎		
2	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥				○	○	
3			カンムリカイツブリ	冬鳥			○	○		
4			カワウ	留鳥				○		
5	ペリカン目	ウミウ科	ウミウ	冬鳥			○	◎		
6			ゴイサギ	留鳥						
7	コウノトリ目	サギ科	アマサギ	夏鳥					○	
8			ダイサギ	留鳥			○	○	◎	
9			チュウサギ	夏鳥					○	
10			コサギ	留鳥			○	○	○	
11			クロサギ	留鳥				○		
12	カモ目	カモ科	アオサギ	留鳥			○	○	○	
13			オシドリ	冬鳥					◎	
14			マガモ	冬鳥			◎	◎	◎	
15			カルガモ	留鳥				○		
16			コガモ	冬鳥				◎	◎	
17			カモ目	カモ科	トモエガモ	冬鳥				○
18					ヨシガモ	冬鳥				◎
19	ヒドリガモ	冬鳥					◎	◎	◎	
20	ホシハジロ	冬鳥							○	
21	ウミアイサ	冬鳥					◎	◎		
22	タカ目	タカ科	ミスゴ	留鳥		○	○	○		
23			ハチクマ	夏鳥	○					
24			トビ	留鳥			○	○		
25			ハイタカ	冬鳥	○					
26			サシバ	夏鳥					○	
27			ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥			○	○	
28	キジ目	キジ科	コジュケイ	留鳥			○			
29			キジ	留鳥			○			
30	ツル目	クイナ科	バン	留鳥			○	○		
31			オオバン	冬鳥				○	○	

No.	目	科	種名	生活型	中央山地 (屋山)	岩峰 (鋸山)	砂浜海岸 (黒津崎)	リアス式海岸 (権現崎・長 崎島)	里山 (河川・ 農耕地・池)	
32	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥			○			
33			シロチドリ	留鳥			◎			
34		メダイチドリ	旅鳥				○			
35		ダイゼン	旅鳥				○			
36		キョウジョシギ	旅鳥				○			
37		トウネン	旅鳥				○			
38		ハマシギ	冬鳥				○			
39		ミュビシギ	旅鳥				◎			
40		クサシギ	冬鳥						○	
41		イソシギ	留鳥				○	○	○	
42		チュウシャクシギ	旅鳥				◎			
43		コシャクシギ	旅鳥				○			
44		ヤマシギ	冬鳥				○			
45		タシギ	冬鳥					○		
46	カモメ科	セグロカモメ	冬鳥			○	○			
47		ウミネコ	留鳥			○	◎			
48	ハト目	ハト科	キジバト	留鳥	○	○		○		
49			アオバト	留鳥	○		○			
50	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ	夏鳥					○	
51			ホトギス	夏鳥	○	○	○	○	○	○
52	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	夏鳥					○	
53			フクロウ	留鳥						○
54	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	夏鳥					○	
55			カワセミ	留鳥			○	○	○	○
56	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	留鳥	○	○				
57			コゲラ	留鳥	○	○	○	○	○	○
58	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	留鳥				○	○	
59		ツバメ科	ツバメ	夏鳥			◎	○	○	
60		セキレイ科	キセキレイ	留鳥				○	○	○
61			ハクセキレイ	冬鳥				○		
62			セグロセキレイ	留鳥						○
63			ピンズイ	冬鳥					○	
64		サンショウクイ科	サンショウクイ	夏鳥					○	
65		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	◎	◎	◎	◎	◎	
66		モズ科	モズ	留鳥	○		○	○	○	
67		ミソサザイ科	ミソサザイ	留鳥	○			○		
68		ツグミ科	ジョウビタキ	冬鳥	○		○	○	○	○
69			ノビタキ	旅鳥					○	
70			イソヒヨドリ	留鳥				○	○	
71			アカハラ	旅鳥					○	
72	シロハラ		冬鳥	◎	◎	○	◎		○	
73	ツグミ	冬鳥	◎				○			
74	ウグイス科	ヤブサメ	夏鳥	○	○					
75		ウグイス	留鳥	◎	◎	○	○		○	
76		メボソムシクイ	旅鳥	○						
77		センダイムシクイ	夏鳥	○	○					
78		クウイタダキ	冬鳥			○				
79	セッカ	留鳥					○	○		
80	スズメ目	ヒタキ科	キビタキ	夏鳥	○	○				
81			オオルリ	夏鳥	○	○				
82		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥	○					
83		エナガ科	エナガ	留鳥	◎	○	◎			
84		ツリスガラ科	ツリスガラ	冬鳥				◎		
85		シジュウカラ科	コガラ	留鳥		○				
86			ヤマガラ	留鳥	○	○	○	○		○
87			シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○		
88		メジロ科	メジロ	留鳥	◎	◎	◎	◎	○	○
89			ホオジロ	留鳥	○	○	◎	◎	◎	◎
90		ホオジロ科	ミヤマホオジロ	冬鳥	○					
91			アオジ	冬鳥	○				○	○
92			オオジュリン	冬鳥					◎	
93		アトリ科	アトリ	冬鳥		○				
94	カワラヒワ		留鳥	○		◎	◎		○	
95	イカル		留鳥	○	○					
96	シメ		冬鳥	○				○		
97	ハタオリドリ科	スズメ	留鳥	○		◎	◎	◎		
98	ムクドリ科	ムクドリ	留鳥				○			
99	カラス科	カケス	留鳥	○	○					
100		ミヤマガラス	冬鳥			○			◎	
101		ハシボソガラス	留鳥	◎		○	○	○	◎	
102		ハシブトガラス	留鳥	◎		○	○	○	○	
103	チメドリ科	ソウシチョウ	留鳥		◎					
104		ガビチョウ	留鳥	○		○				

表2. 鳥類目録 国東半島

No.	目	科	種名	学名	生活型	繁殖
1	アビ目	アビ科	オオハム	<i>Gavia arctica</i>	冬鳥	D
2			カイツブリ	<i>Podiceps ruficollis</i>	留鳥	A
3	カイツブリ目	カイツブリ科	ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	冬鳥	D
4			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	冬鳥	D
5	ペリカン目		カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	留鳥	A
6			ウミウ	<i>Phalacrocorax filamentosus</i>	冬鳥	D
7			ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	留鳥	A
8			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	夏鳥	A
9			ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	留鳥	A
10	コウノトリ目	サギ科	チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	夏鳥	A
11			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	留鳥	A
12			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>	留鳥	C
13			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	留鳥	A
14		トキ科	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	迷鳥	D
15			マガン	<i>Anser albifrons</i>	迷鳥	D
16			ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	冬鳥	D
17			オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	冬鳥	D
18			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	冬鳥	D
19			カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	留鳥	A
20			コガモ	<i>Anas crecca</i>	冬鳥	D
21			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	冬鳥	D
22			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	冬鳥	D
23			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	冬鳥	D
24			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	冬鳥	D
25			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	冬鳥	D
26	カモ目	カモ科	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	冬鳥	D
27			シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	旅鳥	D
28			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	冬鳥	D
29			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	冬鳥	D
30			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	冬鳥	D
31			スズガモ	<i>Aythya marila</i>	冬鳥	D
32			クロガモ	<i>Melanitta nigra</i>	冬鳥	D
33			ピロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	冬鳥	D
34			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	冬鳥	D
35			ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>	冬鳥	D
36			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	冬鳥	D
37			カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	冬鳥	D
38			ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>	留鳥	A
39			ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	夏鳥	A
40			トビ	<i>Milvus migrans</i>	留鳥	A
41			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	冬鳥	C
42			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	冬鳥	C
43		タカ科	ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>	冬鳥	D
44			オオノスリ	<i>Buteo hemilais</i>	冬鳥	D
45	タカ目		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	冬鳥	A
46			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	夏鳥	A
47			ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	冬鳥	D
48			チュウヒ	<i>Circus aeruginosus</i>	冬鳥	D
49			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	留鳥	A
50		ハヤブサ科	チコハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	旅鳥	D
51			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	冬鳥	D
52			チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	冬鳥	D
53			コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>	留鳥	A
54	キジ目	キジ科	ヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii</i>	留鳥	A
55			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥	A
56		ツル科	マナヅル	<i>Grus vipio</i>	冬鳥	D
57	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	夏鳥	A
58			バン	<i>Gallinula chloropus</i>	留鳥	A
59			オオバン	<i>Fulica atra</i>	冬鳥	A
60		ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	冬鳥	D
61			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	夏鳥	A
62			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	留鳥	A
63			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	留鳥	A
64	チドリ目	チドリ科	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	旅鳥	D
65			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	旅鳥	D
66			ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	旅鳥	D
67			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	旅鳥	D
68			タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	冬鳥	D

No.	目	科	種名	学名	生活型	繁殖
69			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	旅鳥	D
70			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	旅鳥	D
71			ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	旅鳥	D
72			オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>	旅鳥	D
73			ウスラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	旅鳥	D
74			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	冬鳥	D
75			ミュビシギ	<i>Crocethia alba</i>	旅鳥	D
76			エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	旅鳥	D
77			ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	旅鳥	D
78			アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	旅鳥	D
79			コアアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>	旅鳥	D
80			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	旅鳥	D
81			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	冬鳥	D
82			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	旅鳥	D
83	チドリ目		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	留鳥	B
84			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	旅鳥	D
85			ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	旅鳥	D
86			ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	旅鳥	D
87			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	旅鳥	D
88			コシャクシギ	<i>Numenius minutus</i>	旅鳥	D
89			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	冬鳥	D
90			タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	冬鳥	D
91		セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	旅鳥	D
92		ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	旅鳥	D
93			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	冬鳥	D
94			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	冬鳥	D
95		カモメ科	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	留鳥	A
96			ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	冬鳥	D
97			コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>	夏鳥	A
98		ウミスズメ科	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	冬鳥	D
99	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留鳥	A
100			アオハト	<i>Sphenurus sieboldii</i>	留鳥	B
101			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	夏鳥	A
102	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	夏鳥	B
103			ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	夏鳥	A
104			コノハズク	<i>Otus scops</i>	夏鳥	B
105	フクロウ目	フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	夏鳥	A
106			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	留鳥	A
107	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	夏鳥	A
108	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	夏鳥	A
109			アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	夏鳥	A
110	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留鳥	A
111		ヤツガシラ科	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>	旅鳥	C
112			アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	旅鳥	D
113	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus avokera</i>	留鳥	A
114			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留鳥	A
115		ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	留鳥	A
116		ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏鳥	A
117			イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>	夏鳥	A
118			ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	旅鳥	D
119			キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留鳥	A
120		セキレイ科	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	冬鳥	C
121			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	留鳥	A
122			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	冬鳥	D
123		サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	夏鳥	A
124		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	留鳥	A
125	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留鳥	A
126		ヒレンジャク科	ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	冬鳥	D
127		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	留鳥	A
128			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	冬鳥	D
129			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	冬鳥	D
130			ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	旅鳥	D
131			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	留鳥	A
132		ツグミ科	トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	留鳥	A
133			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	旅鳥	D
134			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬鳥	D
135			マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	旅鳥	D
136			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬鳥	D

No.	目	科	種名	学名	生活型	繁殖
137	スズメ目	ウグイス科	ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	夏鳥	A
138			ウグイス	<i>Cettia diphona</i>	留鳥	A
139			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	旅鳥	B
140			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus accipitalis</i>	夏鳥	A
141			キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	冬鳥	D
142		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	留鳥	A	
143		ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	夏鳥	A
144			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏鳥	A
145			サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	旅鳥	D
146			コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i>	夏鳥	A
147		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	夏鳥	A
148		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留鳥	A
149		ツリスガラ科	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>	冬鳥	D
150		シジュウカラ科	コガラ	<i>Parus montanus</i>	留鳥	A
151			ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	留鳥	A
152			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	留鳥	A
153		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	留鳥	A
154		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留鳥	A
155			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	冬鳥	D
156			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	冬鳥	D
157			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	冬鳥	D
158			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	冬鳥	D
159			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	冬鳥	D
160			アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬鳥
161		カワラヒワ		<i>Carduelis sinica</i>	留鳥	A
162		マヒワ		<i>Carduelis spinus</i>	冬鳥	D
163		ベニヒワ		<i>Carduelis flammea</i>	迷鳥	D
164	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		冬鳥	D	
165	イカル	<i>Eophona personata</i>		留鳥	A	
166	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		冬鳥	D	
167	ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	留鳥	A	
168	ムクドリ科	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	旅鳥	D	
169		ホシムクドリ	<i>Sturnus vulgaris</i>	迷鳥	D	
170		ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	留鳥	A	
171	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	留鳥	A	
172		カササギ	<i>Pica pica</i>	留鳥	C	
173		ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>	冬鳥	D	
174		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	留鳥	A	
175		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留鳥	A	
176	チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	留鳥	A	
177		ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	留鳥	A	

【生活型】

夏鳥: 大分県内で主として夏に生息している鳥  
冬鳥: 大分県内で主として冬に生息している鳥  
旅鳥: 大分県内を春と秋に通過する鳥  
留鳥: 大分県内に周年生息している鳥

【繁殖】 大分県内での繁殖記録により分類

A: 繁殖が確認されている  
B: 繁殖は確認されていないが、可能性が高い  
C: 繁殖については何とも言えない  
D: 繁殖の可能性は無い